



日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業

東海地区 10 大学連携 創薬人育成スクール

アドバンストコース

主として大学院生対象。学部高学年生も可。参加費無料

日時：令和5年9月2日（土）13時00分～17時30分

場所：名古屋大学 農学部第12講義室

開催世話人：名古屋大学大学院創薬科学研究科 横島 聡

プログラム

13:00	開会の言葉	名古屋大学大学院創薬科学研究科 横島 聡
13:05～14:25	ALK 阻害剤アレクチニブに学ぶ化合物戦略と その適用による新規 TRK 阻害剤 CH7057288 の創製	中外製薬株式会社 伊藤 俊也 先生
座長：中川 秀彦 名古屋市大	未分化リンパ腫キナーゼ（ALK）やトロポミノシン受容体キナーゼ（TRK）などの遺伝子が関与するキナーゼ融合は強力な発癌因子として作用するため、これらのキナーゼに対する阻害剤は臨床において優れた薬効を示している。我々が創製した ALK 阻害剤アレクチニブの事例を分析して化合物プロファイルに落とし込み、その化合物プロファイルに基づくデザイン戦略を適用した新規 TRK 阻害剤 CH7057288 の創製について紹介する。	
14:25～15:45	中分子創薬モダリティについて	塩野義製薬株式会社 釘宮 啓 先生
座長：原 脩 名城大学	ペプチド医薬品や核酸医薬品は、それらの分子サイズが従来の低分子医薬品と分子量が大きい抗体医薬品の中間に位置することから「中分子医薬品」と呼ばれ、次世代の創薬モダリティ（治療手段）の一つとして注目されている。本講義では、シオノギにおける新型コロナウイルス感染症に対する取り組み事例を通じて、中分子創薬モダリティに関する医薬品としての特徴や創薬活用例、将来展望などについて紹介する。	
16:00～17:20	データ駆動型創薬の試み～データから知識・知恵の獲得へ～	帝人ファーマ株式会社 佐々木 俊太 先生
座長：滝田 良 静岡県大	創薬難易度の高まりとともに創薬化学研究を取り巻く環境は年々厳しくなり、新薬創製力強化が大きな課題となっている。近年、ICT や AI 技術を利用して創薬データを拡充、有効に活用しようとする機運が製薬業界全体で高まっている。本講義では、創薬プロセスにおけるデータと計算化学技術について概説し、データから価値ある知識、知恵の獲得から創薬化学研究の意思決定を行うデータ駆動型創薬の試みを紹介する。	
17:20	閉会の言葉	岐阜薬科大学 永澤 秀子

日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業 東海地区世話人

永澤秀子（地域世話人代表、岐阜薬科大学）、滝田 良（静岡県立大）、中川秀彦（名古屋市立大学）、原 脩（名城大学）、安池修之（愛知学院大学）、林 一彦（金城学院大学）、岩島 誠（鈴鹿医療科学大学）、柴田哲男（名古屋工業大学）、横島 聡（名古屋大学）、池田 将（岐阜大学）